

◇学部・大学院の教育研究等環境

I 学部

法学部

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

多摩キャンパスにおける校地・校舎及びキャンパス・アメニティ等の整備については、全学的な方針のもと、学部として適切な管理・運営に努めている。

学生生活環境の改善に関しては、学生からの意見・要望等を積極的に受け付けており、その一環として、オピニオン・ボックス（学生課所管）及び法学部オピニオン・ボックスを設け、学生からの意見や要望等に対応している。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

○ 特になし

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

法学部棟（6号館）には、通常の講義を行う中教室（定員180名）が5室、会話教室（定員40名、円形テーブル設置）が4室、メディア教室（定員50～60名）が8室、演習授業対応の教室（定員18名～46名）が29室、語学教室（定員78名）が1室設置されている。これらは各授業の目的・形態により適切に使用されている。2階には、学部教育の一環として学生個々の学習及び将来計画を支援するためにリソースセンターを設置している（「リソースセンター」の詳細については「第7章 学生支援」を参照のこと）。また、3階には法学部学生図書室と自習室1室（各々の机に仕切りを設置）があり、ともに学生の学習に利用されている。これらは2016年にリニューアルを行い、利便性を向上している。学部図書室にはコピー機も設置されており、ゼミのレジュメのコピーにも活用されている。

複数の学部で教室の管理を行っている8号館には、法学部が管理している大教室が9室（定員434名教室：6室、定員586名教室：3室）あり、6号館では収容しきれない履修者がいる講義科目の授業において使用している。

加えて、法学部棟（6号館）内には、情報処理教育の実施を目的として、PC138台を擁する情報処理教室1室を設置している。2017年3月にはリニューアルを行い、PCをリプレイスと同時に10台の増設を行ったほか、貸出用のノートPC30台を導入した。当該教室は、授業のない時間帯には法学部学生の個人利用に開放しており、学生はインターネットを利用した諸情報へのアクセス、E-mail利用、文書作成ソフト等を利用した資料作成、ゼミ等におけるレジュメの作成とプリントアウト等に活用している。学生の学修環境がデジタル化しつつある中、情報処理教室は自宅のPC環境が充実していない学生にとって非常に利用価値が高いと評価できる。また、学部図書室のPCプリンタ導入により、授業実施により情報処理教室が使用できない際のプリントアウトが可能になるなど、情報環境は徐々にではあるが、整備され

ている。

情報処理教室には、教室と設置機器の管理のため、インストラクター（業者委託）が常駐しており、さらに利用者のサポートのため複数のパートタイム職員を授業時及び個人利用時間帯に配置している。

このほか、教員研究室棟（2号館）には、教員用の共同研究室（定員40名）が3室あり、研究会や会議が開催されている。

以上のように、法学部の活用する施設・設備は、学部の教育目標を実現するために適切なものとなっている。

（2）各施設の利用時間に対する配慮の状況（図書館を除く）

法学部学生自習室は授業期間中の9時から22時、法学部学生図書室は9時から22時まで利用可能である（授業実施期間外等の休業期間中は閉室）。情報処理教室は、授業期間中の平日（月曜日～金曜日）10時から19時45分まで、土曜日10時から16時45分まで開室している。同休業期間中は、月・水・金曜日の10時から15時までとしている。リソースセンターは、授業期間中の平日の10時から17時まで利用することができる。空調や照明等についても、学生・教職員からの要望も参考にしつつ、適切に管理運営を行っている。

以上のように、各施設の利用時間等に対する配慮は適切に行われている。

参 考

【2016年度の自己点検・評価報告書における長所・問題点とそれらへの対応方策】

＜問題点および改善すべき事項＞

- 学部内の学修環境向上のため、情報処理教室のPC機器の今年度リプレースの実施にむけた具体的な計画や、PCの設置台数をはじめとした、学部内のPC・持ち込み情報機器を用いた学習・自習環境を一層充実させることについて、十分な対応がなされていない。

＜対応方策（長所の伸長／問題点の改善）＞

- 学部内のPC・持ち込み情報機器を用いた学習・自習環境の改善策について、情報処理教室・文献情報センター運営委員会を中心に、さらに検討を進める。

【前年度に設定した対応方策の進捗状況】

- 2016年度末に、情報処理教室のPC機器のリプレースを行うとともに、ノートPC貸出ロッカーを導入し、情報機器を用いた学習・自習環境を一層充実させた。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

＜問題点および改善すべき事項＞

- 学部内の学修環境向上のため、PC・持ち込み情報機器を用いた学習・自習環境を一層充実させることについて、対応が十分なされているか、検証及び更なる検討が必要である。

＜対応方策（長所の伸長／問題点の改善）＞

- 2016年度末のリプレースの効果を検証するとともに、引き続き、学部内の情報機器を用いた学習・自習環境の改善策を検討する。

経済学部

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

本学では、キャンパス・アメニティを含めた学生生活環境の改善に関する学生からの意見、要望等を積極的に受け付けることを目的の一つとして、オピニオン・ボックス及びeオピニオンが設けられており、経済学部でも学生からの意見、要望等への対応を日常的に実施しながら、これらの施設・設備の充実に努めている。これらの意見・要望に基づき、2015年度には7号館3階・4階・5階の外国語教室に55型液晶モニターを設置し、従来のビデオ教材のみならずPCを使った講義にも対応できるようにしている。

また、経済学部に係る学生生活環境に係る具体的な整備状況については、広報関係の設備として、経済学部棟（7号館）1階、2階、及び階段の踊り場やエレベーター乗り場には学生生活に関連する各種掲示板を設けている（これとは別に、オンライン上では経済学部独自のWebサイトである「中央大学経済学部キャンパスON LINE」、C plus、さらに経済学部公式Facebookを通じて学生生活にも関連する情報を提供している）。

また、アメニティスペースについては、経済学部棟（7号館）と法学部棟（6号館）との間の連結部分に自習・ミーティングスペースを設けており、2014年度に椅子やテーブルを入れ替えるなどして、さらに快適な空間としてリニューアルしている。また、同スペースは、外国人留学生と一般学生が交流するための国際交流スペースとしても有効的に機能している。

加えて、情報環境面における設備としては、無線LANアクセスポイントを経済学部棟（7号館）の全階教室、ゼミ室、オープンスペースに設置しており、特に、2階のオープンスペースや連結棟1階のミーティングスペースにおける無線LANの環境は、授業時間外における学生の自主的活動（レポート作成、プレゼンテーションの準備を含む）をサポートする役割も果たしている。

なお、7号館3階の経済学部図書室について、2016年3月より什器の入れ替えを行い、さらに無線LAN環境を整え、アクティブ・ラーニング可能なエリアとして学生が活用できるようになっている。

参 考

【2016年度の自己点検・評価報告書における長所・問題点とそれらへの対応方策】

<長所および効果が上がっている事項>

- アクティブ・ラーニング可能な什器を経済学部棟の様々な箇所に設置したことで、グループワークが活発になっている。その姿を他の学生が目にすることで、さらに自主的な活動やイベントを行われるなど、積極性の助長に良い影響を与えている。

<問題点および改善すべき事項>

- 教室の椅子や机等の設備が古くなっているところがあるため、学生のニーズに合った設備に更新していくことが必要となっている。

<対応方策（長所の伸長／問題点の改善）>

- 情報環境委員会を中心に、本学部としての整備計画を検討しつつ、具体的な設備の更新について法人に要請していく。

【前年度に設定した対応方策の進捗状況】

- ゼミ室や教室の什器更新の計画を立てたが、予算上の問題で実現していない。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

＜長所および効果が上がっている事項＞

- 経済学部棟（7号館）と法学部棟（6号館）との間の連結部分の自習・ミーティングスペースや7号館3階の経済学部図書室では、グループワークで活用する学生の利用が前年度よりも増加した。

＜問題点および改善すべき事項＞

- 教室の椅子や机等の設備が古くなっているところがあるため、学生のニーズに合った設備に更新していくことが必要となっている。

＜対応方策（長所の伸長／問題点の改善）＞

- 情報環境委員会を中心に、本学部としての整備計画を検討しつつ、計画的に教育環境を改善していく。

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

（1）大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

経済学部棟（7号館）1～2階には通常の講義を実施する教室（定員100～180名の中教室が9室）があり、いずれの教室も、PCと接続可能なプロジェクタが備え付けられており、視覚的にも効果のある授業が展開できるようになっている。その他2階には、ICTリテラシー学修の活用のために、受講生のPC利用を伴う講義を実施する教室（ワークステーション室が3室及び7210号室）がある。前述の通り、従来から年次計画で整備してきた7号館3階・4階・5階の外国語教室への55型液晶モニターを設置については、2015年度授業開始時には整備が完了している。これにより、外国語授業においてはビデオ教材のみならず、PCを使った講義にも対応できるようになり、加えて、演習授業においても外国語教室を活用しプレゼンテーション等を行えるようになっている。

また、経済学部は少人数教育を重視しており、3～5階には、大型モニター等を備えた主に外国語関係の授業を行う教室（定員42名の語学教室が4室、47名の語学教室が16室）が、さらに5～7階には演習（ゼミ）専用教室（定員20名の演習室が44室、その他に共同ゼミ室が2室あり、内1室がノートPC20台、プロジェクタ、スクリーン、テレビ、ビデオなどを備えており、もう1室にはノートPC20台、プロジェクタ、スクリーンが備えられている）が、それぞれ設置されている。また、学生の自主的なゼミ活動を支える組織として経済学部ゼミナール連合会（ゼミ連）があり、その専用室が6階に2室ある。

3階の学生図書室（閲覧席数は約130席）は、2016年3月より什器の入れ替えを行い、さ

らに無線 LAN 環境を整え、アクティブ・ラーニングが可能なエリアとして学生が活用できるようになっている。ここは経済学部学生のための施設であり、約 3,000 冊の蔵書、及び約 1,700 本のビデオ・DVD ソフトが備えられており、ブルーレイディスク 3 台によって各種映像ソフトの閲覧が可能である。その他、3 階には経済学部学生のための専用自習室があり、貸出用ノート PC 等を持ち込むこともできる。

また、経済学部棟（7 号館）以外では、経済学部所管の教室として、8 号館には主に必修科目や基幹科目用の大教室（定員 434 名の教室が 3 室、510 名の教室が 2 室）がある。大教室には PowerPoint やビデオが使用できるように、大型スクリーンやプロジェクタなどの設備が備えられている。

他方、情報処理機器等の整備に関して、経済学部では「いつでも PC などの情報環境を利用できる」ことを目標に、経済学部棟（7 号館）の情報環境を毎年整備している。経済学部棟（7 号館）2 階にあるワークステーション（WS）3 室には、講義や自習に使用できる PC として、WS 1 に 52 台、WS 2 に 60 台、WS 3 に 42 台を設置している。また、学生貸出用ノート PC を 141 台常備している。また、7 号館については、全階における無線 LAN の環境を整えており、教室やゼミ室はもとより、2 階廊下にも机と椅子を配置し、少人数でノート PC を借り出して利用できる環境となっており、ゼミや授業の合間に貸出用ノート PC を借り出して、レポートの作成やプレゼンテーション、ネットワークを使つての調査や外国語の自習、さらに e-learning 教材の自宅での活用等も可能になっている。

新入生に対してはワークステーション利用のための利用講習会、上級生も含む全ての経済学部学生に対する Word・Excel・PowerPoint・データベース・統計解析等のソフトに関するパソコン講習会について年間を通じて頻繁に開催し、学生が経済学部の施設、情報環境を効果的に使いこなすことを促進している。

以上のように、経済学部の使用する施設・設備は、その教育研究目標を達成する上で適切なものとなっている。

（2）各施設の利用時間に対する配慮の状況（図書館を除く）

経済学部棟（7 号館）に関する教室について、授業等で使用していない時間に関しては、基本的に多摩キャンパスの開門である 8 時から閉門となる 23 時までの使用が可能となっている。このほか、7 号館 2 階のパソコン教室（ワークステーション）については、平日（月曜日～金曜日）が 9 時 20 分～19 時、土曜日は 12 時～17 時の開室時間となっている。

また、3 階の学部図書室の通常授業期間における開室時間は、9 時～19 時（月曜日～金曜日）、9 時～16 時（土曜日）となっている。このほか、3 階の自習室については、開室時間を 8 時～23 時としている。

以上のように、各施設の利用時間については授業時間以外にも十分に利用可能な時間が確保されており、その配慮は適切に行われている。

参 考

【2016 年度の自己点検・評価報告書における長所・問題点とそれらへの対応方策】

<問題点および改善すべき事項>

- ワークステーション 3 について、PC 等が古くなっており、教育効果の向上に向けて更新が必要である。

＜対応方策（長所の伸長／問題点の改善）＞

- ワークステーションについては、情報環境委員会を中心に、より柔軟かつ学生・教員の意見も踏まえたレイアウト案を作成し、機器のリプレイス等を実行できるよう検討を進める。

【前年度に設定した対応方策の進捗状況】

- ワークステーション3について、PCや什器のリプレイスを実施し、席数も36名から42名に増やすことができた。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

＜長所および効果が上がっている事項＞

- ワークステーション3について、2016年の夏季休暇中に機器のリプレイスを行い、座席数も増え、快適な学習スペースとしてリニューアルした。PCのリニューアルに伴い、ソフトのバージョンアップも実施し、PCの動作スピードもあがった。また、席数の増加に伴い、同時時間帯での利用者数も増加した。

＜対応方策（長所の伸長／問題点の改善）＞

- ワークステーション3のリプレイスが実施されたが、経済学部では他にワークステーション室が2部屋あるため、情報環境委員会での検討を中心に、引き続きリプレイスを計画的に実施していく。

商学部

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

主に商学部の授業を行っている5号館では、1階の事務室前のスペースと連結棟（6号館との連結部分）にはソファやテーブル、ベンチ等が配置され、授業の合間の休憩時間や昼休み、課外の時間において学生達の交流の場となっている。また、5号館2階や地下入り口外部、8号館1階外部等に飲料の自動販売機が、各階には冷水機が設置されている。5号館1階には、多目的トイレとパウダーコーナーを配備している。

空調設備については、個別空調の導入など多摩キャンパス全体で、整備見直しが望まれる。

参 考

【2016年度の自己点検・評価報告書における長所・問題点とそれらへの対応方策】

＜問題点および改善すべき事項＞

- 5号館では、1階の事務室前のスペースと連結棟（6号館との連結部分）にはソファやテーブル、ベンチ等が配置され、授業の合間の休憩時間や昼休み、課外の時間において学生達の交流の場になっているが、今後さらに改善し、拡大していく必要がある。

＜対応方策（長所の伸長／問題点の改善）＞

- 全学の状況によるところが大きいですが、学生間の交流スペースの拡大、空調設備の改善などを検討する。

【前年度に設定した対応方策の進捗状況】

- 5号館事務室前のスペースの問題もあり、ロビーとしての設備改善・充実には至っていない。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

- 特になし

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

商学部の教育に使用している教室は多摩キャンパスの5号館と8号館である。収容定員300人以上の大規模教室は8号館に商学部の所管する教室が7室あり、主に学部共通科目、各学科の必修科目等で利用している。収容定員が100～150人程度の中規模教室は5号館に5室あり、主に各学科固有の専門科目等で利用している。収容定員50～60人程度の小規模教室は22室で、主に英語、第二外国語等の語学の授業で使われる教室と個別PCの設置された教室で構成される。語学教室は机と椅子の配置が自由に変更可能になっており、教育効果を高める教室使用が可能となっている。収容定員30名以下のゼミ教室は20室あり、主に演習で利用している。

全ての教室において、電子的な出席確認を行う機器が導入されているわけではないが、全学授業支援システムmanabaによって一部可能となっている。なお、ある特定の時限について教室に過不足がある場合は学部間で柔軟に融通しあっている。また、授業の空き時間には、1学生につき2時間を限度に学生が自由に利用できるようになっている。

以上により、施設・設備の現状は概ねそのニーズに応じた教室を手配できており、概ね適切であるといえる。

他方で、情報環境の整備状況については、商学部では、情報機器を配備したワークステーション4室（5101、5103、5207、5301号室）と5611教室で、情報関連科目の授業を行い、イントラネットを使用した授業が可能である。また、2014年度に改装した3階3教室（5303、5306、5307号室）は、最近重要となってきているアクティブ・ラーニングを用いた教育にも対応できるようになっている。アクティブ・ラーニング用の教室はPBL科目である「ビジネス・プロジェクト講座」で使用するほか、2015年度は反転授業にも使用した。

商学部が教室に配備している情報機器等の状況は、以下の通りである。

[表 8 - I - 1 商学部情報機器配備状況]

5号館(商学部棟)

教室	定員	備考	PC(台)
5101	120	W-S(PC,PR,PJ)	124
5103	50	W-S(PC,PR,PJ)	54
5201	144	マイク,PC,PJ,SC,カセット,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5202	141	マイク,PC,PJ,SC,カセット,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5203	135	マイク,PC,PJ,SC,カセット,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5204A	32	TV	0
5204BC	102	マイク,SC,モニタ,CD,DVD,BD,書画	1
5207	30	マルチメディア(LL/PR,PJ,SC,中間モニタ)	36
5301	50	C-S(PC,PR)	50
5303	31	PJ,SC	0
5306	104	マイク,SC,モニタ,CD,DVD,BD,書画	1
5307	47	PJ,SC	0
5401	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5402	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5403	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5404	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5405	54	PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5406	54	PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5407	54	PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5408	54	PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5501	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5502	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5503	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5504	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
5505	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5506	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5507	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5508	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5601	20	PC,PR,モニタ	20
5602	20	PC,PR,モニタ	20
5603	20	PC,PR,モニタ	20
5604	20	PC,PR,モニタ	20
5605	20	PC,PR,モニタ	20
5606	24	TV	0
5607	24		0
5608	24		0
5609	48	マイク,PC,PR,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5610	54	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	1
5611	61	マイク,PC,SC,モニタ,VHS,CD,DVD,BD	46

5号館(商学部棟)

教室	定員	備考	PC(台)
5701	24	PC,PR,モニタ	22
5702	24	PC,PR,モニタ	22
5703	24	PC,PR,モニタ	22
5704	24	PC,PR,モニタ	22
5705	24		0
5706	24		0
5707	20		0
5708	20		0
5709	20		0
5710	24		0
5711	30	TV(5706)	0
5712	30		0

88

8号館(大教室棟)

教室	定員	備考	PC(台)
8101	304	マイク,PC,PJ,SC,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
8102	304	マイク,PC,PJ,SC,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
8103	304	マイク,PC,PJ,SC,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
8104	304	マイク,PC,PJ,SC,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
8105	586	マイク,PC,PJ×2,SC×2,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
8304	586	マイク,PC,PJ×2,SC×3,VHS,CD,DVD,BD,書画	1
8305	510	マイク,PC,PJ×2,SC×4,VHS,CD,DVD,BD,書画	1

7

PR=プリンター, PJ=プロジェクター, SC=スクリーン, BD=ブルーレイ, LD=レコード, 書画=書画カメラ(教材提示機)

貸出用

PC		100
iPad		130

433

商学部が教室に配備・整備している PC は計 528 台あり、それ以外の情報関連機器等として無線 LAN 設備、プリンタ、暗幕、マイク、プロジェクタ、DVD スクリーン、実物投影機、カセットテープレコーダ、ビデオレコーダ、CD プレーヤー、DVD プレーヤー等も配備している。2012 年度からは、iPad130 台を導入し、PC を設置していない教室でも Web 検索ができるほか、アプリ開発とその動作検証を行うというような授業も実施できるようになった。また、上記以外に貸出し用のポータブル PC、プロジェクタ、スクリーンも用意している。

現状で情報関連機器等の配備は数量的には十分であるものの、個々のニーズ(例えば、ゼミ単位での PC 利用希望の増加、中規模教室での PC 利用希望、学生の授業時間外の利用希望等)に対しては十分には対応できていない面もあるが、情報関連機器等の配備状況については概ね適切であるといえる。

(2) 各施設の利用時間に対する配慮の状況(図書館を除く)

多摩キャンパスは午前 8 時に開門し、午後 11 時に閉門する。5 号館、8 号館の施設は、授業の開始前から最終授業終了後まで利用できるよう配慮している。

参 考

【2016 年度の自己点検・評価報告書における長所・問題点とそれらへの対応方策】

＜問題点および改善すべき事項＞

- 2015 年度に全学授業支援システム manaba が導入されたが、全教室でスムーズにアクセスできる体制が必要である。
- 学生が自分の PC を持ち込んで作業できるような自習室が整備されたが、個人単位での PC 利用希望、学生の授業時間外の利用に対しては十分には対応できていないため、こうした自習室を増加させることで学習活動を促進するような対策が必要である。

＜対応方策（長所の伸長／問題点の改善）＞

- 教室内設備等の更新・整備については、引き続き授業環境整備委員会で検討する。
- 自習室の増設の可能性を授業環境整備委員会で検討する。

【前年度に設定した対応方策の進捗状況】

- スマートフォンの普及等により、学生のニーズにも変化が生じつつあると思われるが、自習室の充実については、引き続き授業環境整備委員会で検討していく。
- 留学生ラウンジの新設やゼミ室へのタブレット設置などが部会から要望として商学部授業環境整備委員会へ寄せられたが、審議の結果、2017 年度の予算申請は見送った。

【2017 年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

- 特になし

理工学部・理工学研究科

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

1) 学部の施設・設備等諸条件の整備状況

理工学部及び理工学研究科が所在する後楽園キャンパスは、東京都文京区春日 1 丁目に位置し、東京メトロ後楽園駅、都営地下鉄春日駅から数分の交通の至便な場所にあり、その敷地面積は、27,141 m²である。ここに、授業教室や研究室、実験実習用施設、倉庫ならびに付属の高等学校施設のほか、屋外コート、学生休息エリアが用意されている。この学生休息エリアには、桜や樺等の植栽が整備されており、学生同士の交流や教育研究活動の合間の休息の場であることはもとより、地域住民の憩いの場にもなっている。しかし、現状の敷地面積は、理工学部が十分な教育と最新の研究活動をさらに行ってゆく上では飽和状態であり、学生数に対し授業時間以外に学生の集うスペースや課外活動団体用施設も十分とは言えない。

施設については、表 8-I-2 の通りである。各施設の竣工年は、1 号館が 1962 年（昭和 37 年）、次いで 4 号館が 1977 年（昭和 52 年）、5・6・8 号館が 1980 年（昭和 55 年）と古く、特に 1 号館は、2007 年度に耐震補強工事を行い、耐震基準 Is 値 0.6 以上を満たしているが、老朽化が目立つ状態である。また、施設仕様も現在の複雑かつ高度な技術や情報化に柔軟に対応しうるものではなく、給排水や情報系の配管は廊下天井等にむき出し設置され、設置スペースそのものも飽和状態になりつつある。新 2 号館の完成後に旧 2 号館は解体され、跡地には屋外コートが整備されている。

[表 8-I-2 後楽園キャンパス 主要施設]

(大学正課にかかる施設)

名称	主な用途	面積	竣工
1号館	物理学科、電気電子情報通信工学科、保健センター、学生生活課、都心キャンパス庶務課	9,355.49 m ²	昭和37年
新2号館 (※)	都市環境学科、精密機械工学科、生命科学科、人間総合理工学科、先端科学技術センター、(中央大学高等学校施設)	15,774.18 m ²	平成24年3月
3号館 (※)	情報工学科、実験室(都市環境学科、精密機械工学科、電気電子情報通信工学科、応用化学科)、大学院講義室、ITセンター、理工学研究所、研究支援室、理工キャリア支援課、(中央大学高等学校施設)	17,316.71 m ²	平成15年
4号館	サークル室	465.97 m ²	昭和52年
5号館	応用化学科、学部講義室、廃水処理施設、アリーナ	14,394.39 m ²	昭和55年
6号館	経営システム工学科、数学科、語学・人文・社会教室、学部講義室、中央図書館理工分館、理工学部事務室	17,800.60 m ²	昭和55年
地学実験室	地学教室	51.52 m ²	昭和48年
合計		75,158.86 m ²	

(※) 面積に附属の高等学校専有面積を含まない。

(その他の施設)

名称	主な用途	面積	竣工
実験棟(旧先端技術研究センター)	都市環境学科	331.00 m ²	平成10年
産学官共同研究棟		79.25 m ²	
新2号館の一部	中央大学高等学校施設	1,585.10 m ²	
3号館の一部	中央大学高等学校施設	1,971.98 m ²	
8号館	中央大学高等学校施設	1,805.31 m ²	昭和55年
倉庫(4棟)	危険物倉庫、土木測量器具庫、器具庫、倉庫	99.76 m ²	
合計		5,872.40 m ²	

2) キャンパス・アメニティの整備状況

アメニティ整備に当たっては、「予算申請による法人への要求」または「法人からの施設改修計画の提案」によって、相互の意見交換により進められている。教室関係は、理工学部事務室、学生生活関係は理工学生生活課が中心となって整備計画を立案し、改善をすすめる。2012～2013年度末には、5号館教室の机と椅子のリプレイスを行い、授業を受ける学生の快適性が向上した。

後楽園キャンパスには日常生活や課外活動の場として、3号館1階、5号館地下1階の2つの学生食堂、売店(生協)、放課後のレクリエーション・部活動のためのアリーナとサークル室29室、シャワー室(2カ所)、保健センターがある。また、談話スペースとして3号館エントランスロビーをはじめ、1、2、3、5、6号館の1階ロビーや廊下の小ホールなどにテーブル・椅子を用意し、無線LANを使った自習や談話ができるようになっている。屋外では、中庭及び噴水広場、屋外コート脇のスペース等を中心に、キャンパス随所にベンチが設置されており、天気の良い日には談話スペースとして利用できるようになっている。

また、売店は営業時間が10時～19時、学生食堂は3号館が11時～20時(土曜日は16時まで)、5号館が11時～15時と、昼の混雑時への対応及び遅い時間まで研究活動を続ける学生への利便性に配慮している。しかし、昼食は50分の昼休みの間に学生が集中するため、ピーク時には、かなりの待ち時間を要している。食堂の座席数は3号館・5号館合計で630席あるが、5,000名の学生に対して圧倒的に不足していることから、3号館食堂に隣接するコミュニケーションスペース(100席)や理工学部学生生活課が管理している会議室(150席)を食事の場所として開放し、昼食として1,600食を供給している。食堂を利用しない学生はカップ麺や菓子パンで済ませてしまうことが多いという問題が指摘

されており、食堂の混雑緩和という側面に留まらず食育の観点からも理工学部学生生活課を中心に学生の食生活改善について継続的に検討がなされている。改善策の一つとして、2016年4月から平日の昼食時間にキッチンカーを試験導入した。毎日日替わりでメニューを提供し、価格帯は生協食堂より100円ほど高いものの1日50食～120食程度を供給する結果となり、好評であることから、2017年度も継続することとして効果を検討している。また、2017年度からは、(1)特に食堂・売店が混雑する春期には、売店でレジに並ばずに購入できる500円(ワンコイン)弁当を販売、(2)売店で販売する弁当を既製品から食堂で調整したものに切り替える、(3)売店で取り扱うパンのメーカーを増やし、選択の幅を増やす、(4)管理栄養士の監修のヘルシーランチの提供、(5)6号館1階ホールでの弁当販売、(6)売店でのハラル食品の取り扱い及び食堂でのハラルメニューの取り扱い開始等の取り組みを行い、学生の食生活改善を図っている。

このほか、体育施設は5号館内アリーナ及び屋外コートがある。キャンパスロケーション上、広大なスペースをとることはできないが、10学科の体育実技以外の空き時間は全て学生の利用に供しており、8時～9時及び19時30分～21時10分の課外時間を含めほぼフルに利用されている。一方、文化系施設は部室数も含め不足気味で、音楽活動ができるスペースはない状況である。

現在、後楽園キャンパス内は、全館内が禁煙となり、喫煙は屋外の2カ所の喫煙スペースに制限されており、完全分煙化がなされている。

(2) 校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生を確保するための仕組みの整備状況

本学の建物の躯体構造に係る維持・管理は、全学的に管財部が行うこととなっている。

一方、各学科・教室が専ら使用する教育研究施設、設備に関しては、各学科・教室の主任を中心に管理を行っている。継続的な管理による性能維持が行われ、必要に応じて使用講習会を開催して稼働率を向上させるとともに、安全で適正な使用にも努めている。

また、文部科学省補助金などで購入した高額装置等で、各学科・教室で共通利用できる設備(超伝導量子干渉計(SQUID)や走査電子顕微鏡等)は、複数利用者の使用頻度によって維持費や修理費を分担し、教育用設備の故障は各学科・教室毎の共通予算の支出により迅速に修理されている。

さらに、各研究室に設置されている設備に関しては、研究室責任者の下で管理している。実際の運用・管理については各研究室の設備を含め、研究室責任者である教員または教育技術員が担当している。しかしながら、設備数に対して十分ケアできるだけの人員の配置は困難で、文部科学省補助金等で購入した高額装置等は、技術的に高度かつ複雑なため、教員自らが大学院学生の協力を得ながら維持管理するので精一杯である。

なお、最近では情報や知的財産の管理が厳しく求められているが、この点について、規程等の整備を進め、使用者としての学生・教職員の意識を高めるべく情報提供を行っている。(2013年5月16日理工学部・理工学研究科合同FD研修会「教育著作権セミナー」)

他方、キャンパス内の安全管理に関しては、学部長を委員とする理工学部安全管理委員会を設けており、キャンパスにおける安全管理における基本方針、基本計画、防災対策等を検討している。また、キャンパス内の安全対策として、各入構口及び建物の入り口全てに防犯カメラを設置している。

危険物(薬品・高圧ガス等)の取扱い、遺伝子組み換え実験、廃棄物処理等については、規程を整備し、それぞれ理工学部内に管理委員会を設けて、法令に則った運用・管理を実施して

いる。また、危険物に関しては、劇毒物管理担当者をおき、研究室・実験室における劇毒物の適正な取扱い及び保管管理を行っている。危険物保安監督者は、法令に基づき、教員から2人を選任している。また、毎年4月初旬のガイダンス期間には、薬品を扱う応用化学科4年生及び大学院学生を対象とした安全管理指導講習会を行い、学生の安全意識の向上に努めている。高圧ガスについても、同様の安全管理指導講習会を行うとともに、日常の使用について使用量の管理などを行っている。

なお、緊急災害時の連絡体制については、総務部都心キャンパス庶務課を中心とした防災の組織を整備しており、事故等が起きた際には速やかに対応できる体制となっている。2014年度には、緊急災害時に学生等の避難誘導を担当する教職員に対してヘルメット等が配布されるとともに、キャンパス内の防災用品の整備が進められている。また、同年8月には避難訓練及びAED訓練、消火器訓練を実施し、2015年9月には、職員対象に災害パニック回避訓練を実施した。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

- 特になし

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

- (1) 大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

1) 学部の教育研究目的を実現するための施設・設備

後樂園キャンパスにおける各施設は、教育研究上の利便性を考慮し、各学科・専攻の施設は原則として同一の建物に集約するよう配慮している。したがって、各建物には各学科・専攻の教育研究内容に見合った、教員研究室、実験・実習室、輪講室、院生研究室、学科準備室、学科図書室等が設置されている。

後樂園キャンパスには、2017年5月1日現在、理工学部10学科4,155人、理工学研究科11専攻614人の学生が在籍しており、この学生数に対して、学部講義室が5・6号館に38室、大学院講義室が3号館を中心に8室が用意されている。学部講義室の内訳としては、A:300名以上の受講が可能な大教室が2室、B:203名定員の教室8室、C:96~120名定員の教室20室、D:48~56名定員の小講義室8室と、様々な授業形態に合わせた利用が可能となっている。全ての学科、専攻及び教職課程の授業を1~6時限においてこれらの施設で実施している。但し、定員の多い精密機械工学科、電気電子情報通信工学科、応用化学科、経営システム工学科の1学年全員を対象とした必修科目の講義には150名程度を定員とする講義室が必要となるが、このような中規模の講義室は8室しかなく、現在の使用状況では2時限、3時限の時間帯が100%近くになっており、時間割編成に苦慮している。2013年度に開設された人間総合理工学科においては、2号館内に学科専用のセミナー室（80名定員）の設備整備を行い、各教員の専門分野に基づく授業がプロジェクト等を用いて実施されている。

また、実験・実習室については、10学科のほぼ全ての教員に個別の施設が手当てされ、4年次の卒業研究及び大学院学生の研究活動の場として利用されている。しかし、著しい科学技術の進歩に対応するには現在の各実験・実習室の面積は十分とは言えず、やりくりをしながら何とか凌いでいる状況であり、年により増減する人員に柔軟に対応するだけの

余裕はない。この点については2号館完成後も十分に緩和できてはいない。

学科図書室は、中央図書館理工学部分館とは独立して設置されている。ここには、各学科・専攻に関連した、和書、洋書、学術雑誌等を整備し、閲覧・学習のための閲覧室を設けている。希望する図書の検索や購入のリクエストをすることができるほか、複写機を使用することもできる。閲覧室では、学生が自主学習を行うほか、友人達との情報交換の場所ともなり、場合によっては大学院学生からの指導を受ける重要な役割も担っている。

体育施設としては、5号館内アリーナ及び屋外コートがある。キャンパスロケーション上、広大なスペースをとることはできないが、10学科の体育実技は概ね円滑に運用されているといえる。一方、教育研究用施設を厚く手当てしたため、学部・研究科で共用できる会議室が少なく、各種会議や論文審査等の実施にあたり不便をきたしている。また、海外から招聘・招待する外国人研究者のためのゲストハウスや専用の研究室がなく、招待する各教員が宿泊先を確保したり無理に研究スペースを捻出したりと、外国の研究者との連携に支障をきたすことが多々ある。

このほか、2号館には都市環境学科、精密機械工学科、生命科学科、人間総合理工学科、先端科学技術センター、中央大学高校の一部が配置されている。会議室や製図室等を学科間で共有することなど、施設の効率的かつ適切な利用に取り組んでいる。

なお、後樂園キャンパスでは、応用化学科を中心に有機、無機の化学薬品を使用するため、廃水処理を必要とするが、無機系廃水処理設備は5号館地下に設置されており、委託業者により適正に処理が行われている。一方、有機系の廃水処理設備はキャンパス内には設置されておらず、外部処理となっている。

2) 教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

情報処理機器等に関し、設備面では、上述の講義室46室のうち43室にAVユニット（プロジェクタ、スクリーン、DVD、CD、VHS、PC入力端子を装備）が設置されており、外国語教育科目における高いコミュニケーション能力の修得支援や、総合教育科目あるいは専門教育科目における様々なデジタルコンテンツを用いた視聴覚的学習効果の向上に利用されている。

情報処理教育・研究環境においては、理工学部・理工学研究科共用の情報環境整備センター後樂園ITセンター（以下、「ITセンター」という）をはじめ、数学科、経営システム工学科、情報工学科、人間総合理工学科専用の計算機室、キャンパス内無線LANアクセスポイント等を整備し、快適な環境を提供している。

ITセンターの実習室5室（4室は可動壁の移動により規模を変更可能）には、PC236台、プリンタ8台が導入されており、PCを利用した授業に活用されている。Linux・Windowsの両方が利用可能な環境である。基本アプリのほか、Mathematica、Matlab等の数値演算/グラフ化ソフトをはじめ、理工学部の教育、研究に欠かせないソフトウェアを提供している。ITセンター実習室は、授業利用を優先するが、授業がない時間帯は開放しており、一般の学生が利用している。しかし、授業利用枠が増加傾向にあるため、一般の学生のレポート課題の作成や自習時間が制約を受けてきており、学修環境の更なる工夫が望まれる。また、最新の情報処理技術の下で教育研究を施すことを重視し、概ね4～5年周期にて機器リプレイスを実施している。

このほか、数学科、経営システム工学科、情報工学科、人間総合理工学科については、情報処理そのものが教育研究テーマとして重視されているため、学科専用の計算機/実習

室を設けている。それぞれ PC が数学科 108 台、経営システム工学科 142 台、情報工学科 124 台、人間総合理工学科 90 台が設置され、主にそれぞれの学科の授業（特に少人数の演習科目）、研究に利用されている。この情報環境整備により、カリキュラムに沿った適切な演習が可能な情報処理システム、学生の自習や自主的な創作活動をもサポート可能なシステムが提供されている。この 4 学科専用の計算機／実習室も、概ね 4 年周期にてリプレイスを行い、演習に必要な機器・ソフトウェアを整えている。

さらに、2 号館 2 階には都市環境学科、精密機械工学科が共同で利用できる CAD 室があり、製図の授業に利用するための PC55 台が設置されている（CAD/CAE 装置の都市環境学科－精密機械工学科共同使用）。

こうした学部学科共有の情報処理施設とは別に、各教員の研究室では卒業研究の内容に応じて、必要な情報機器を整備している。現在、授業科目の履修登録やシラバスの閲覧、成績確認、休講情報の確認等は C plus で運用を行っており、こうした PC 環境の整備により、学生にストレスなくサービスを提供することが可能となっている。

また、理工学部単独の「KIT-eClass(Web Class)」と全学的に展開している「manaba コース 2」の 2 種類の LMS を、対面授業を補充する位置づけで活用している。

ソフトウェアに関しては、コスト面とライセンス管理の効率性を勘案し、情報環境整備センターが中心となってキャンパスライセンス契約を結び、各研究室等より多くの端末にて安心してソフトウェアが利用できるよう配慮をしている。提供しているソフトウェアの主な種類は、MS Office、Mathematica、Mat lab、SAS、SPSS 等である。

ネットワーク環境に関しては、全ての講義室、教員研究室をはじめキャンパス内のほぼ全室に情報コンセントが 2 口ずつ設置している。また、キャンパス内では、無線を使ったネットワークアクセスも整備が進んでいる。

（2）各施設の利用時間に対する配慮の状況（図書館を除く）

開門は午前 8 時、閉門は午後 11 時となっており、通常の教育・研究活動を行う上では特に支障はない。研究遂行上特に必要のある場合には、予め届けを提出しておくことで学内での終夜利用が可能である。警備員（業務委託）が常駐し、学内巡回やキャンパスの開閉門を行い、キャンパス内での安全を確保している。

また、IT センター実習室は 8 時～22 時 30 分と、授業時間以外にも十分に利用可能な時間が確保されている。

【2017 年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

<長所および効果が上がっている事項>

- 講義室に設置しているプロジェクタをはじめとする AV 機器は、授業で使用している教員の意見を聴取しつつ、理工学部事務室で作成している長期リプレイス計画により、順次機器の更新を行っている。

<対応方策（長所の伸長／問題点の改善）>

- リプレイスが完了した教室の AV 機器（特にプロジェクタ）と、前回のリプレイスから数年が経過した機器では、その性能差が明らかで、プロジェクタの照度に関して、教員からの要望が多く寄せられる。授業で使用する機器の要望についてヒアリングの上で、教室の割り当てを行うなど、できる限りの対応をしているところである。

文学部

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制として、文学部では教務委員会が学生生活上の諸問題の具体的な対処にあたっている。

学生の自由利用空間としては、3号館1階に、「アカデミック・ラウンジ」を設置し、授業以外の時間を過ごせるように配慮している。アカデミック・ラウンジには、13脚のテーブルと16脚のイス（他に壁側ベンチ5）を備えてある。アカデミック・ラウンジでは、奨学金に関する情報提供、留学経験者による留学相談、留学生と日本人学生同士の情報交換や、多言語で会話しながらランチをする「国際交流ランチ」交流スペースとしても活用できる時間帯を2012年度から設定している。学生の利用度は高く、長期休暇中は別として、全席の8～9割は終日埋まっており、学生の予復習の場所、資格試験などの勉強場所として定着していると判断できる。また、2016年3月にはカーペットから床に張替を行い、明るく開放的な空間作りをしている。

このアカデミック・ラウンジ等、学生のための自由利用空間における利用度の高さは、これら設備が有効に機能している証であるが、在学生アンケートにおいて、授業以外の自習に使えるスペースの拡充を求める意見が多数寄せられていることから、学部内に自習やグループワークの場として活用可能なスペースをさらに拡充することが望ましい。

参 考

【2016年度の自己点検・評価報告書における長所・問題点とそれらへの対応方策】

<問題点および改善すべき事項>

- 在学生アンケート結果から、学部内に自習やグループワークの場として活用可能なスペースをさらに拡充することが望まれているが、具体的なスペース確保、自習室拡充の見通しは立っていない。

<対応方策（長所の伸長／問題点の改善）>

- 学部事務室において、引き続き3号館の利用状況の確認作業をすすめ、教室等の有効活用について検討していくとともに、必要に応じて関連部署との調整を行う。

【前年度に設定した対応方策の進捗状況】

- 3号館内において、現在資料室となっている小教室の再利用や、他部署の所管となっている3308号室、3階ガラス張りスペース等の文学部事務室への移管の可能性などを検討してきたが、自習やグループワークの場として活用可能なスペースについての具体的な方策は見いだせていない。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

<問題点および改善すべき事項>

- 在学生アンケート結果から、学部内に自習やグループワークの場として活用可能なスパー

スをさらに拡充することが望まれているが、具体的なスペース確保、自習室拡充の見通しは立っていない。

<対応方策（長所の伸長／問題点の改善）>

- 学部事務室において、引き続き3号館の利用状況の確認作業をすすめ、教室等の有効活用について検討していくとともに、必要に応じて関連部署との調整を行う。

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

文学部の教室数は、55室（このうち書道教室1室）あり、収容人員合計は、約5,000名である。それら教室は、学部の教育目標を達成するための、多様な授業形態・方法に対応しうるように、大きさ・設備・備品について様々なタイプの教室を用意している。500人規模の大教室は1室、300人規模の大教室は3室、これらは履修者の多い講義科目に利用されるほか、講演会等のイベントにも活用されている。150人規模の教室は8室、60人規模の教室は文学部設置の授業科目において利用度が高く、28室用意されている。ゼミナール等に対応した小規模の教室については、40人規模教室が4室、30人規模の教室が7室用意されている。全ての教室にはテレビ（もしくはスクリーン）とビデオが設置されているほか、40教室以上がPC接続可能であり、ブルーレイプレーヤーを装備している。このことによりAV機器を利用した授業や研究発表が日常的に行える環境となっている。ただし、教室数については、余裕があるわけではない。毎年度の教室割の際に、やりくりに苦勞しており、授業科目数を増やす方向でのカリキュラム改善にはなかなか対応しえない。また、各教室におけるIT機器設備のリニューアルやソフトのバージョンアップ等が負担となっている。

このほか、パソコン教室が3室、書道教室が1室備えてあるほか、心理学専攻には実験室、社会情報学専攻には実習室が設置されている。また、13専攻と総合教育科目それぞれに共同研究室があり（平均面積は72.2㎡）、それぞれに閲覧スペースと必要な専門図書や機器類を備えている。

パソコン教室については、3教室のうち2つは一斉講義方式、残りの1つはゼミ教室スタイルである。3452教室（第1パソコン教室）・3451教室（第2パソコン教室）は、授業時間外は個人利用に供している。各教室の年度の稼働率は以下の通りである。

[表8-I-3 文学部 パソコン教室 稼働状況]

	1週間可能コマ数A	授業時間数B	個人利用時間数C	授業稼働率D (B/A*100)
3451 教室	34	21	13	61.8
3452 教室	34	21	13	61.8
3256 教室	34	23	個人利用不可	67.6

(注) 3452教室の後方座席は、3451、3452両室が授業で使用している際には、履修者数に応じて個人利用席として開放している。1週間可能コマ数とは、平日を1～6時限、土曜日を1～4時限とカウントしている。

パソコン教室における学生用PC設置台数は、3451教室60台、3452教室60台、3256教室30台となっており、全てLANによって接続され、プリンタやインターネットにアクセスできるようになっている。

以上のように、全体の教室数については、現行の科目数と学生数に対応する数と収容能力とを確保しているほか、共同研究室は、演習科目や卒業論文のための調査・研究に欠かせぬ施設として機能しており、学生の利用も盛んであることから、これらは文学部の教育研究目的を実現しうる適切な施設・設備条件となっている。

(2) 各施設の利用時間に対する配慮の状況（図書館を除く）

パソコン教室は、先に述べたように、授業で利用している時間帯以外は、平日 9:00～19:30（土曜日は 16:30 まで）、学生の個人利用に供している。また、3451、3452 教室が両室とも授業で使用中の場合には、学生の個人利用時間確保のためパソコン教室後方出入り口周辺の空席を、個人利用席として提供している。授業期間中、多くの専攻共同研究室は、週 3 回平日の夜間（午後 8 時まで）も開室しており、正課の授業後における学生の自主的学習・研究に役立っている。

参 考

【2016 年度の自己点検・評価報告書における長所・問題点とそれらへの対応方策】

<問題点および改善すべき事項>

- 教室については、特定の曜日・時間帯に利用が集中し、授業編成や、適切な教室の配置が難しくなる状況が続いている。また、各教室における機器備品のリニューアルやソフトのバージョンアップ等が予算上の負担となっている。

<対応方策（長所の伸長／問題点の改善）>

- 教務委員会において固定コマの導入を含む授業編成の改善に向けた取り組みを継続する。教室の機器備品については、実際の利用状況等や機器の耐用年数に基づく優先順位に従い、中長期的な計画のもとでの更新を引き続き行う。

【前年度に設定した対応方策の進捗状況】

- 教務委員会において固定コマの導入を含む授業編成の改善に向けた取組みとして、外国語科目については一部固定コマを導入した。教室の機器備品については、利用状況等や機器の耐用年数によって優先順位を設定し予算を申請しているほか、他課室の PC を移管するなどして更新を行っている。

【2017 年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

- 特になし

総合政策学部

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

本学では、キャンパス・アメニティ向上のため、学生の意見や提案を聞く「オピニオン・カード」制度があるほか、学部事務室を中心に学生からの意見、要望等に日常的に対応している。

11号館（総合政策学部棟）は、建設以来24年が経過して改修（リフォーム）の時期を迎えており、設備リフォームにより学生勉強・研究環境の利便性の向上を図ることが希求されている。この中で、次のことを順次行っている。

- ・11号館全体の講義室の机と椅子378セット分の交換。
- ・11号館各教室のAV機器のリプレイス。
- ・学生用コミュニティスペースの提供を目的として11号館A棟の2・3階にテーブル並びに椅子、白板を配置し、ここでの学生間のコミュニケーション活動を可能とした。
- ・11号館における9カ所のトイレ設備を更新し、館内全ての照明を交換した。
- ・演習室のPC250台のリプレイス。
- ・11号館外壁・屋上防水改修工事を実施した。
- ・教室、演習室の空調設備をリプレイス。（2017年夏季休業期間中に実施予定）

一方、学生の生活の場としての利便性向上と学生への日常サービス向上の一環として、11号館A棟3階には学生生活に関連する各種掲示板を設け（これとは別に、オンライン上では総合政策学部独自のWebサイトを立ち上げている）、さらにC plusを通じて学生生活にも関連する情報を提供している。また、総合政策学部事務室の前には、資料等の印刷に学生が利用できる複写機1台を設置し、事務室開室時間帯（平日9時～20時、土曜日9時～13時）の利用が可能となっているほか、各種証明書等自動発行機が設置されている。

このように、総合政策学部では在学生在が4年間を過ごす学部棟を充実した学習空間の場となるよう、学生の意見・要望を随時反映させながら、快適な空間の創出に努めている。

なお、在学生アンケート（毎年5月頃実施）の「問21. 以下の学内施設及び設備について、あなたはどの程度満足していますか。」における総合政策学部生の肯定的回答（[1. 満足]または[2. どちらかといえば満足]）の割合は次の通りである。

【表8-I-4 総合政策学部の学修環境等に対する満足度】

年度	2012	2013	2014	2015	2016
教室内の設備（机、椅子等）	76.0%	82.2%	80.1%	76.0%	79.2%
PCやネット環境等の情報機器・環境	92.8%	87.1%	84.9%	83.1%	87.2%
空調	70.9%	74.8%	76.4%	72.4%	78.2%
トイレ	74.8%	75.5%	77.0%	69.6%	66.0%
授業以外の時間に休憩・自習に利用できる施設	79.4%	79.8%	80.6%	78.4%	77.6%

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

○ 特になし

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

総合政策学部の授業は、主に11号館A棟にて行われている。1階には情報処理学習施設として演習室が3室（各定員80名）設けられており、情報処理関連の授業のほか、語学関連の授業を行っている。また、講義利用時間以外は、8時～23時までの間、総合政策学部生が自由に情報機器を利用できる場を提供している。2階には講義室3室（定員85名：2室、定員

56名：1室）の他、約190㎡のスペースを自習室及び情報自習室として学生に開放し、情報処理をはじめとして各種の授業科目の自習ができる場を提供している。3階には約360㎡の総合政策学部専用の図書館を有しているほか、4階には講義室4室（定員85～128名）、演習室1室を設けている。また、学生が「FPS ニュース」を制作することができる動画編集スタジオ1室が設置されている。5階には演習（ゼミ）・語学専用教室（13室）が設置されており、総合政策学部の少人数教育の拠点となっている。

以上のように、総合政策学部の教育目標を達成すべく多様な教育に対応する適切な施設となっている。

総合政策学部では、「いつでも自由に情報環境を利用できる」ことを目標にして、11号館内の無線LANの整備により、館内ならどこでも貸出専用のPCがインターネットに接続可能な状態となっている。日常の情報活動としての機能、分析手段としての機能、実験手段としての機能としての基本機能を学ぶ上での学生各自の学習用途や目的に応じて、文献の検索から政策分析・立案に必要な数量的解析までを行うために利用されている。さらに、情報演習室や自習室の更なる整備、ノートPCの貸出の充実、学生のプレゼンテーション能力向上のための機器充実等、教育環境を側面的に支援する施設・設備の充実・増強、e-learning教材の提供を行っている。

また、総合政策学部では学部の基本理念である少人数教育の重視と学生の自学・自習をサポートするツールとして、情報機器の量的・質的向上を図っているのに加え、現状の機器を順次増強している。また、情報インフラ整備としてもファイルサーバの順次更新、その他のサーバ等の順次更新と統廃合、ファイアウォール更新によるLAN接続速度の向上（100MBから1GBへ）、11号館全体の無線LAN設備の更新（工事完了）を行っている。

しかしながら、このような配置を行っても特定機器への短期的な利用の集中等があり、時間帯によっては一部学生が機器を利用できない場合も生じている。また、学生の粗雑な取り扱い等による機器の破損・故障等も生じており、この点の解決が必要である。

情報環境をめぐる内外の動きは日進月歩であるため、総合政策学部では、情報小委員会の下、予算制約の中で機器、ソフトを計画的に更新している。さらに対学生サービスの現場を支えるシステム管理室のスタッフと連携しつつ、利用者である学生のニーズを絶えずチェックしている。特に貸出し機器の数量の把握を行いながら、教員や学生から出される希望等をリアルタイムで把握し、情報教育小委員会委員でメール審議等を含めての審議を経ながら情報環境の進展に対応する敏速な改善を日常的に図っている。一方、学生の情報機器の扱い方に関しては、倫理観の向上等の基礎的な教育が必要となっているため、情報小委員会が中心となり「情報リテラシーハンドブック」を作成し、新入生オリエンテーション時に1.5時間×4コマ分の集中ガイダンスを専任教員が行っている。このようにして、総合政策学部の教育目標における情報環境整備を適切に行っている。

（2）各施設の利用時間に対する配慮の状況（図書館を除く）

学部棟施設に関しては、休日、年始年末を問わず開門から閉門までの時間（8時～23時）に学生が自由に使える体制をとっており、学生の生活の時間帯には常時使用が可能となるよう配慮がなされている。しかしながら、休日、夜間は管理者が不在とならざるをえない。また、特に11号館は正門から直線的に出入り可能であるため、この間の防犯を考える必要がある。この対策として情報演習室、自習室に関しては、電子鍵（ICカード式）を設置するとともに、扉に窓を設けることで廊下から室内が見える構造とし、防犯効果の向上を図っている。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

＜問題点および改善すべき事項＞

- 2017年度より、入学定員50名増となったことに伴い、今後、総合政策学部棟における学生の学習空間の場（自主ゼミ等で利用される2階、3階ロビー等）が狭小となる可能性がある。

＜対応方策（長所の伸長／問題点の改善）＞

- 2019年度に開設を予定している学部改組による新学部構想及びそれに伴うキャンパス整備計画の検討状況を踏まえつつ、学習環境の整備計画を立てる。

Ⅱ 大学院 文系大学院共通

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

大学院として、キャンパス・アメニティの形成・支援のための独自の体制は有していないが、大学院学生対象のアンケート調査において、授業以外の内容について記述しているものもあり、そうしたかたちで学生の意見を吸い上げるようにしているが、大学院学生の意見、要望は大学院事務室へ直接提示されることもある。

また、大学全体としてオピニオン・ボックス及びeオピニオンが設けられており、学生生活全般に係る意見・要望はそこに寄せられる仕組みとなっている。

ここ数年間において、多摩キャンパス2号館のトイレの改修、建物内の禁煙化、喫煙コーナーの屋外設置、空調設備の更新が行われてきているほか、多摩校舎2号館5階の渡り廊下部分に自販機を置いた簡易の休憩スペースがある。また、2号館の3階ロビーには談話スペースがあり、休憩時間や空き時間には大学院学生が活用しているほか、学生生活関連棟(Cスクエア)の建設などでも談話スペース等の充実が図られており、大学院学生にも利用できる空間となっている。さらに、生活の場の一部としても研究室が活用されているが、休業期間中に使用できなくなる期間もあるため、年間を通じて平常通り使用が可能となるよう配慮が求められる。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

- 特になし

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況(情報処理機器の整備状況を含む)

1) 施設・設備の状況

2号館の5階と6階に法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策研究科と共有するかたちで授業教室が22室用意されている。このほか文学研究科の学生の日常的な研究の場である学生研究室(3号館に29室、4号館に1室)、学生がグループで利用できる学生共同研究室(3号館に1室、4号館に3室)、講義・演習用教室(2号館4階及び5階)がある。

また、法学研究科、経済学研究科、総合政策研究科については、一部授業を市ヶ谷田町キャンパスの1～11階(2, 4～7階を除く)の教室合わせて21室で実施することが可能となっている。市ヶ谷田町キャンパスの施設・設備として、学生の共同研究室、ロッカーは整備されている。なお、社会人に配慮し土曜日においてはいくつかの政策系の科目に関して、市ヶ谷田町キャンパスの教室を利用して授業を行うほか、場合により多摩キャンパスと市ヶ谷田町キャンパスとの間で遠隔会議システムを利用した授業を展開しており、教育を行う上では全く支障のない施設・設備となっている。

2) 情報処理機器の整備状況

授業教室では、多摩キャンパス（2号館4階～6階）・市ヶ谷田町キャンパス（1階、3階、8階～11階）とも、ほぼ全ての教室で無線LANが使えるよう整備しており、そのうち多摩キャンパスでは2教室、市ヶ谷田町キャンパスでは7教室にはPCが常設されている。また、多摩キャンパスと市ヶ谷田町キャンパスをネットワークでつなぐ遠隔授業システムをそれぞれ1室設けている。他方、研究支援としては、各自が自習をするための情報自習室（多摩キャンパス2号館6階及び市ヶ谷田町キャンパス2階）のほか、学生研究室においても個人所有のPCでインターネット接続できるよう整備している。

さらに、多摩キャンパスでは、論文作成のためのノート型PC、授業用ノートPC、プロジェクト及びスクリーンの貸し出しを、また、市ヶ谷田町キャンパスでは、授業用ノートPC、プロジェクト及びスクリーンの貸し出しを行い、インターネット、PCを活用した教育研究環境の拡充に努めている。情報自習室のPCはWindows 7proで運用されており、大学院事務室でユーザアカウントと初期パスワードの交付を受けて利用することとなっている。1人400MBまでホームディレクトリにデータを保存することも可能である。また、情報自習室のPCは多摩、市ヶ谷田町いずれのキャンパスからも同じ環境で使うことができる。多摩キャンパスでは、利用可能端末数は36台、利用可能ソフトは、Microsoft Office、SPSS、Mathematica、SAS、Amos等である。また、貸し出し用ノートPCは32台用意されている。

一方、市ヶ谷田町キャンパスでは、利用可能端末数は40台（国際会計研究科と共用）、利用可能ソフトウェアは多摩キャンパスと同様であり、貸し出し用ノートPCは3台用意されている。大学院学生の情報処理施設・設備利用にあたっては大学院事務室で所定の手続きを行い、「中央大学大学院キャンパス情報ネットワーク管理運用基準」を遵守することとしている。

(2) 各施設の利用時間に対する配慮の状況（図書館を除く）

多摩キャンパス大学院事務室の利用時間は、授業実施期間中（平日：9:00～18:00、土曜日：9:00～16:00）とそれ以外の時期（平日：9:00～17:00、土曜日：9:00～12:00）とに分けている。

学生研究室の利用時間は、多摩キャンパスでは、8時（開門時刻）から23時00分（閉門時刻）まで、市ヶ谷田町キャンパスは8時（開門時刻）から24時00分（閉門時刻）まで利用できる。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

- 特になし

国際会計研究科

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

国際会計研究科は、市ヶ谷田町キャンパスに所在しており、国際的に活躍しうる高度専門職業人の養成を目的とした教育に対応できる教室、社会人を中心とする学生のニーズに対応できるような施設・設備が導入されている。教室の具体的な整備状況については後述するが、学生談話用のスペースとして、1階と3階にラウンジ、11階にコモンズを整備している。

なお、市ヶ谷田町キャンパスには、食堂や生活協同組合等の売店がないため、1階エントランスの一部を改善し、食事を可能とし、3階ラウンジには自動販売機を設置することにより、少しでも学生の生活環境改善に役立っている。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方針】

○ 特になし

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

国際会計研究科において、講義、演習等については、履修者数に応じて合計19教室で授業が行われている。下表に示す通り教室数は十分な数が確保されており、各授業の履修者数と双方向型の授業の実現を十分に勘案した教室サイズとなっている。各教室は、基本的に公共政策研究科等の文系大学院との共用となっており、平日の午前・午後の授業が中心である文系大学院に対して、国際会計研究科は平日の夜間、及び土曜日を中心であるため、土曜日の一部時間帯について文系大学院との調整が必要な場合が見受けられるが、基本的に国際会計研究科の授業を優先して配置することが文系大学院との協議において了承されており、共用に伴う国際会計研究科における利用上の問題は特に生じていない。

[表8-II-1 国際会計研究科授業教室一覧]

収容人数	部屋数	パソコン教室	液晶ディスプレイ有り	録画用カメラ有り
48	1	-	1	1
46	1	1	1	1
36	3	-	3	3
28	1	1	1	1
21	3	-	3	3
20	1	1	1	1
18	6	2	2	2
14	2	2	2	2
12	1	-	-	-
合計	19	7	14	14

国際会計研究科の講義では、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）などを活用するため、19教室中14教室において液晶ディスプレイが常設されている。また、社会人学生が全体の86%を占めていることから、急な仕事で欠席せざるを得ない学生のためのフォローアップとして、大部分の講義科目をビデオ録画し、学内のVOD（ビデオ・オン・デマンド）システム（自習室のPCに配置）により視聴が可能となっている。このため、19教室中14教室において録画用カメラが常設されている。また、一部の講義ではPCの操作を実際に履修生に行わせるため、学内ネットワークに接続された専用PCが配置されている教室がある。配置数は、7室で合計158台となっている。

また、学生の自習環境については、文系大学院と国際会計研究科の共用のPC自習室2室（総座席数は58席）を設置しており、同自習室のPCにおいては、VODシステムによる講義の録画ビデオの視聴が可能となっているほか、これ以外にもキャンパス内には、学生個人所

有の PC の無線 LAN 接続ポイントがあり、学生は持参した PC を接続できる。さらに、図書室と PC 自習室は同じ階に配置され、簡単に移動が可能な状況になっている。

一方、学生における修学上の支援システムとして C plus を導入している。このシステムは、インターネットを通じてアクセスすることによって、学外から履修登録、休講・補講照会、授業における配付資料等の照会、レポート提出、試験日程の確認、成績照会、電子掲示板における Web ミーティングなど学修上の直接的なサポートのほか、学生情報・通学区間の変更等の各種手続きの利便性の向上に資するシステムとして機能している。他方、教員の教育研究に関しては、教員共用スペースに 2 台の PC とプリンタが配置され、専任教員、客員教員や兼任講師の利用が可能である。また、国際会計研究科専任教員の個人研究室 11 室、及び教員共同研究室 5 室については、研究・教育用 PC 及びプリンタを各 1 台配置している。

市ヶ谷田町キャンパスの IT 環境については、市ヶ谷 IT センターが所管し、2 名の要員（うち 1 名は都心キャンパス庶務課と兼務）が配置されている。学生及び教員からの IT 関連の利用方法等の相談に当たるほか、システムの技術的トラブルやハードウェアの故障等について対応しており、午前 10 時から午後 10 時までの間、IT 関連のサポートが受けられる体制となっている。

（２）各施設の利用時間に対する配慮の状況（図書館を除く）

市ヶ谷田町キャンパスにおける施設の利用については、社会人学生が国際会計研究科の中心的存在であるため、社会人に配慮した支援体制として、国際会計研究科事務課の窓口を授業時間帯に合わせて開室（下表参照）するとともに、PC 自習室等のキャンパス内の施設の利用時間を 8：00～23：00（図書室については月曜日が 10：00～20：00、火～金曜日が 10：00～22：00、土曜日が 9：00～22：00、日曜・祝日が 10：00～18：00）としている。また、休憩等をとるための飲食可能なラウンジも開放している。

[表 8－Ⅱ－２ 国際会計研究科事務課の開室時間]

	月曜日	火から金曜日	土曜日	日・祝日
国際会計研究科事務課	10:00～20:00	10:00～22:00	9:00～22:00	10:00～18:00

このほか、国際会計研究科事務課については、住所変更、履修登録等の各種手続きのほか、授業教材・レジュメの取得やレポート課題の提出を各研究科の教務システムを通じて Web 上から行うことも可能となっており、仕事を有したまま本学で学ぼうとする社会人学生に対する日常的な配慮も十分なされている状況にある。

【2017 年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

- 特になし

法務研究科

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明および点検・評価結果】

- （１）校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

法務研究科は市ヶ谷キャンパスに所在し、教育研究に必要な施設設備の整備を行っている。

具体的な講義・演習室、学生自習室等、教育活動に係る施設の詳細は後述の2-（1）において詳述する通りであるが、このほか、さらに、市ヶ谷キャンパス内には、食堂が1カ所あり、昼食及び夕食を提供している。法務研究科の学生は、授業前後の自学自修を含め、長時間にわたりキャンパス内に滞在することもあり、食事は重要な問題であることから、オピニオン・アンケートで寄せられる意見を参考に、継続的にサービスの改善等が行われている。

また、施設設備についての学生からの意見・要望については、各学期はじめにクラス単位で実施するミーティングや、各学期末に実施するオピニオン・アンケートを通じて把握し、学修環境の改善と向上に努めている。

（2）校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生を確保するための仕組みの整備状況

施設・設備の維持に関しては、専門職大学院事務局及び施設管理を担当する都心キャンパス庶務課が連携して維持を行っている。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点およびそれらへの対応方策】

○ 特になし

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明および点検・評価結果】

（1）大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

1) 講義・演習室

市ヶ谷キャンパスには、専門職大学院設置基準に基づき、法務研究科における高度な教育水準と環境を確保するために、次の教室等を設置している。特に、法律基本科目群の授業科目については、約50人収容の双方向・対面授業に対応した教室を必要クラス分設置することとし、その他、各授業科目の教育内容に照らして、教室・演習室、情報処理教室、模擬法廷教室を設置している。法律基本科目の授業を実施する標準教室では、教卓や学生用機の情報環境整備、プラズマディスプレイ2基の配置や各種プレゼンテーション用設備が整っている。

模擬裁判の教場となる模擬法廷教室については、裁判員制度に基づく刑事裁判を前提に裁判員席を含む9席からなる法座を整備している。

[表8-II-3 講義・演習室]

施設	収容人員	面積	室数	備考
大教室	141人	183.28㎡～190.94㎡	4	
模擬法廷	114人	155.94㎡	1	大教室を兼ねる
情報教室	100人	184㎡	1	大教室を兼ねる
中教室	40～63人	99㎡～152.1㎡	10	
小教室	16～28人	50.4㎡～63.6㎡	7	
ゼミ室	4～12人	10.48～24㎡	20	

2) 学生自習室

法務研究科における学生の自習施設は、授業内容を理解するための予習・復習をはじめ各自の必要な学修を常時行うために重要である。本学では従来から学生研究室や学生自習室の環境整備に努めており、そうした経験を踏まえつつ、市ヶ谷キャンパスには、学生の自習スタイルや情報環境のニーズに対応して、固定席を確保した自習室、図書館（ローラ

イブラリー) 内の自由閲覧席、PC 自習室を整備している。

学生の自習室については、学生 1 人に一席の指定席を確保しているほか、多様な学修方法のニーズに即応した資料閲覧・読書・データベース検索処理用の自由席を整備しつつ、認可時の計画を履行している。

[表 8-II-4 学生自習室]

単位：席

施設	面積	用途	席数
院生研究室A専用	209.1 m ²	キャレル設置。 各キャレルに情報コンセント敷設。 1号館5階談話スペースにプリンタ6台を設置。	116
院生研究室B専用	161.5 m ²		98
院生研究室C専用	73.2 m ²		41
院生研究室D共用	65.7 m ²		32
院生研究室E専用	79.2 m ²		44
院生研究室F専用	93.1 m ²		55
院生研究室G専用	121.4 m ²		76
院生研究室H専用	329.0 m ²		170
院生研究室I共用	65.7 m ²		30
院生研究室J共用	45.9 m ²		20
院生研究室K専用	19.8 m ²		11
院生研究室L共用	19.8 m ²		11
院生研究室M専用	95.5 m ²		45
院生研究室N共用	65.7 m ²		27
ローライブラリー 図書室A 共用	517.5 m ²	閲覧席設置 (PC 2台設置) (内図書室内 PC 自習室 41 席に PC41 台設置)	164
ローライブラリー 図書室B 共用	533.5 m ²	閲覧席設置 (PC 7台設置)。	40
院生 PC スペース専用	117.6 m ²	PC44 台設置	44
合 計			1,024

3) 研究施設・設備

法務研究科の専用施設として、専任教員数に応じた専任教員研究室を合計 70 室確保している。また、市ヶ谷キャンパスには、教員間の相互研修や教材開発等を行う施設として、各種データベース活用のための情報環境を整備した「教育研究支援室」を設置している。なお、市ヶ谷キャンパスに設置される大学院教員室は、兼任教員や非常勤教員の利用にも供している。

法科大学院での学修を十全なものとするためには、授業時間外に専任教員によるオフィスアワーを設定するなど、教員と学生との間のコミュニケーションの場を確保することが特に重要である。そのため、前述の専任教員研究室、大学院教員室のほかに、学修指導室 2 室、談話スペース等を設置して、適宜、柔軟な履修・研究指導体制がとれるよう措置している。

4) 情報処理環境

学生自習室(院生研究室等)キャレルと図書室閲覧席全席に情報コンセントを設置し、ノート PC を接続して、インターネット環境への接続と法令・判例データベースへの接続・検索を可能としている。また、臨時設置用として計 20 台の PC を備え置き、授業で使用できるようにしているほか、キャンパス内に 15 台のノート PC を備え置き、自習室各席及び閲覧席で利用することもできるよう、貸し出し体制を整備している。加えて、自習環境の支障にならぬようにプリントアウトスペースを設けたほか、図書室閲覧室には、固定型デスクトップ PC を配置している。

さらに、PC 自習室には、85 台のデスクトップ PC が設置されており、学生が自由に利用することができる。また、情報教室には、合計 100 台のノート PC が設置されている。なお、各教室には、それぞれ教卓に PC を設置し、教員が学生用 PC を利用する必要がないように配慮している。

また、市ヶ谷キャンパス内数カ所には無線 LAN のアクセスポイントが設置され、セキュリティの観点からアクセスには市ヶ谷 IT センターにコンピュータを登録することを求めているが、キャンパス内のほとんどのエリアで利用できるようになっているほか、電波状況により使えないエリアにおいては、有線 LAN を配置する方法で対処している。

[表 8 - II - 5 情報処理機器などの配備状況]

施設	状況	単位：台 配備台数
情報教室	100 席全席に固定型ノート PC を設置	100
PC 自習室 (2409 号室)	44 席全席にデスクトップ PC を設置	44
PC 自習室 (図書室 A 内に設置)	キャレル席にデスクトップ PC を設置	41
ローライブラリー 図書室 A	閲覧席の一角に固定型デスクトップ PC を設置 閲覧席全席に情報コンセント設置	2
ローライブラリー 図書室 B	閲覧席の一角に固定型デスクトップ PC を設置 閲覧席全席に情報コンセント設置	7
可動・多目的型	校舎内貸し出し用のノート PC を用意	15
臨時設置用	ノート PC 20 台を用意	20
合 計		229

※上記設置 PC については、学生が使用可能なもののみを記載。

5) その他

市ヶ谷キャンパスへの入退構、図書室への入退構には、IC カード型学生証によるセキュリティシステムが導入されている。なお、IC カード型学生証は、市ヶ谷キャンパスに 1 台設置している証明書等自動発行機で各種証明書（成績証明書等）の交付を受ける際にも使用される。

このほか、修了生支援として、エクステンションセンター法職事務室が管理する市ヶ谷田町キャンパスに 1 人 1 席のブース型の自修研修席を用意し、図書資料室、PC 室、教室型会議室、演習室型会議室、談話室等を設置するなどして、法務研究科修了生が司法試験に向けたラストスパートにあたり学習するスペースを別に確保することで、市ヶ谷キャンパスにおける在学生の自習室等の不足を補う対策を講じている状況にある。

市ヶ谷キャンパスは元アジア経済研究所の建物を購入し、専門職大学院の教育施設として改修したもので、あわせて耐震補強工事を行い整備した。しかし、建物は教育施設としての一応の整備を終えたとはいえ、築後 50 年を経過したもので非常に老朽化している。市ヶ谷キャンパス開設から 10 年を超え、施設・設備の老朽化が顕著にあらわれており、日常の教育研究活動において支障をきたしている。

(2) 各施設の利用時間に対する配慮の状況（図書館を除く）

各施設の利用時間については、情報教室は 8 時から 22 時まで、貸し出し PC は 9 時 50 分から 20 時 15 分としている。また、自習室を含むその他の施設については、年末年始の一時期を除き土日・祝日を含む 8 時から 24 時まで利用可能とし、防犯カメラによる安全管理も行

うなどの配慮を行っている。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点およびそれらへの対応方策】

○ 特になし

戦略経営研究科

1. 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの整備状況

後樂園キャンパス全体の施設設備については、理工学部管財課が、また戦略経営研究科の専用施設設備については、戦略経営研究科事務課が担当している。

戦略経営研究科事務課では、キャンパス・アメニティ向上のために在学生及び修了生へのアンケートを実施し、その結果を教育研究環境や学生の生活スペースの充実に向けて活用している。

このほか、後樂園キャンパスでは、学生が利用可能な食堂、売店を設置している。

また、学生・教員間のコミュニケーションを促進し、休憩や自習等多様な研究活動にも利用可能な「コモンズ」と名付けたコミュニケーションスペースを設けている。ここにはレイアウト変更が容易な什器を採用し、コピー機、PC、プリンタを設置したコピースペースを併設しているほか、給茶器、ホワイトボード並びにプラズマディスプレイ、常設プロジェクタを設置している。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

○ 特になし

2. 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【現状の説明及び点検・評価結果】

(1) 大学および学部・研究科の教育研究目的、教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備状況（情報処理機器の整備状況を含む）

戦略研究科の教育研究目的は、企業の各機能領域について経営戦略とリンクした体系的な知識を持ち、戦略経営を企画立案し、かつ遂行できるプロフェッショナルとしての戦略経営リーダーの育成とそのための研究を推進することである。そのためには、施設設備も座学中心のものからディスカッション・グループワークを多用した幅広い授業形態に対応でき、加えて、主たる入学対象である有職の社会人学生に相応しい必要があることから、これらの点も考慮して、適切なものを導入するよう努めており、以下のような構成となっている。

教室については、15教室を専用施設としている。専用施設のうち7教室は通常授業で使用する教室として、ディスカッション等双方向あるいは多方向による授業を想定し、馬蹄型、対面型の教室各1室を設置している。専用教室の教員用AV・情報機器は、教員の操作の利便性を追求し同一仕様としている。残りの8教室は、プロジェクト研究等で使用する教室となっている。また、講義やプロジェクト演習におけるグループワークに資するため、全ての小教室に常設プロジェクタを設置している。

また、グループワーク等の利用や学生・教員間、学生同士のコミュニケーションを深める

ことができるよう配慮して、「コモンズ」と名付けた専用のミーティングスペースを設置し、専任教員の個人研究室もコモンズと同じフロアに配置している。

このほか、自習施設として、共用の PC 室と自習室を設置し、大学院 PC 室には PC テーブル 21 席、学生共同研究室にキャレルデスク 30 席を設置している。また、大学院博士後期課程ビジネス科学専攻の学生専用の共同研究室を 1 室 (PC テーブル 4 席、その他 3 席) 設置している。大学院 PC 室、学生共同研究室ともに学生証 (IC カード) で入室管理を行っており、曜日に関わりなく 8:00~23:00 の間、利用可能となっている。

他方、教育用情報処理機器については、大学院 PC 室、学生共同研究室に配置し、共通アプリケーションとして、Microsoft Office、SPSS、SAS、Mathematica 等を導入している。また、全施設において、全学無線 LAN が使用可能であり、学生個人所有の PC も個人のアカウントを利用して使用が可能となっている。2014 年度には、大学院 PC 室の PC 及び講義教室の教卓 PC を更新し、2015 年度には VOD (ビデオ・オン・デマンド) システムのリプレイスを行うなど、機器のリプレイスをはじめとした情報環境サービスの向上に努めている。

具体的な配備状況としては、通常の授業で使用する 7 教室に教員用 PC を設置している。大学院 PC 室には PC 21 台とプリンタ 3 台を設置している。その他コモンズに PC 3 台とプリンタ 1 台、また事務室にて貸し出しているノート型 PC については授業用として主要ソフトをインストールし、15 台用意している。また、大学院博士後期課程ビジネス科学専攻の学生専用の共同研究室に PC 4 台、プリンタ 1 台を用意している。

なお、今後は海外駐在中や出張中のビジネスパーソンが誰でも学べる環境づくりに資する取り組みとして、ICT を活用した遠隔授業の形態を検討していく予定である。

(2) 各施設の利用時間に対する配慮の状況 (図書館を除く)

戦略経営研究科は、専ら有職の社会人学生を対象としていることから、施設・設備の利用やサービスの提供については、それを十分考慮したものとしている。

<施設・設備の利用時間>

コモンズ、教室、大学院 PC 室、学生共同研究室等の自習施設

曜日に関わりなく 8:00~23:00 まで

事務課の窓口 火~金曜日は 13:00~22:00、土曜日は 9:00~20:00

日曜日は 9:30~18:00

*証明書等は、自動発行機により事務課開室時間外においても発行可能。

上記以外にも、社会人学生の便宜を図る方途として、各種教材の事前配布やレポートの提出、各種情報の確認、諸手続きが Web 上で可能なシステムとして C plus を導入しているほか、社会人学生が業務の都合上、授業に遅刻欠席するような場合に備えて、「プロジェクト研究」以外の授業を全て録画し、VOD による補講・補習を可能としている。

また、夜間に教育研究を実施しているため、昼夜問わず、定期的に警備スタッフが巡回をし、危機管理にあたっている。

参 考

【2016年度の自己点検・評価報告書における長所・問題点とそれらへの対応方策】

- 教室備え付けのPCについてはその老朽化により授業運営に支障を来していた点が課題となっていたが、学生の利便性も鑑み、新たに主要ソフトを備えたノート型PCを30台購入し、授業用として導入している。

<問題点および改善すべき事項>

- VODシステムについては、2015年度にリプレースを行った教室については画質が向上するなどの効果があがっているが、全ての教室においてリプレースを実現できていないため、早急に対応していく必要がある。

<対応方策（長所の伸長／問題点の改善）>

- VODシステムについては、社会人学生の学修を支える重要な基盤であることから、2017年度予算編成時の重点項目として申請を行い、早期にリプレースを実現していく。

【前年度に設定した対応方策の進捗状況】

- VODシステムデジタル化については、2017年5月現在すべての教室のリプレースが完成していないため、引き続き年度末に3教室分の工事が進められるようにITセンターと調整し準備を進めていく。2018年度以降も残りの4教室のVODシステムのデジタル化やプロジェクタのリプレースが進められるように準備を進めている。

【2017年度 自己点検・評価における長所・問題点及びそれらへの対応方策】

<問題点および改善すべき事項>

- VODシステムについては、2015年度にリプレースを行った教室については画質が向上するなどの効果があがっているが、全ての教室においてリプレースを実現できていない。VODシステムのデジタル化が完了していないため、デジタルとアナログの混在により機器の増減・切り替えでタイムラグが発生している状況となっており、引き続き対応が必要である。

<対応方策（長所の伸長／問題点の改善）>

- VODシステムデジタル化については、2017年度末に3教室分の工事が進められるようにITセンターと調整を行うとともに、2018年度以降も残りの4教室のVODシステムのデジタル化やプロジェクタのリプレースが進められるように準備を進めていく。